

2 本県児童等の自転車事故状況等

(1) 過去の自転車事故状況

県教委への交通事故報告件数や、それに含まれる自転車事故件数の推移等について分析する。

報告件数は、14年度114件から19年度67件へと大幅に減少しており、今年度もほぼ同様な傾向である。

しかし、自転車事故件数は、横ばい傾向であり、全報告件数のうちの割合が高まっており課題が残る。特に、図3に示したように、中学生は報告件数の7割弱が自転車事故であり、対策が急務である。

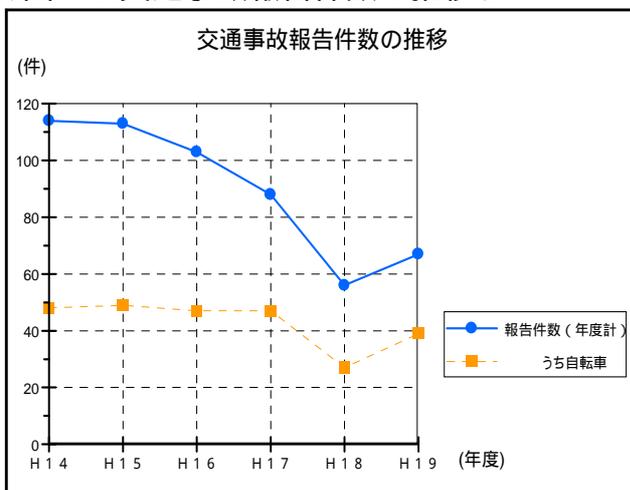
また、近年、自転車運転中の死亡事故が増加するとともに、昨年度は、自転車による加害死亡事故も発生するなど、自転車安全教育の充実が喫緊の課題である。

〔表1：交通事故報告件数の推移〕

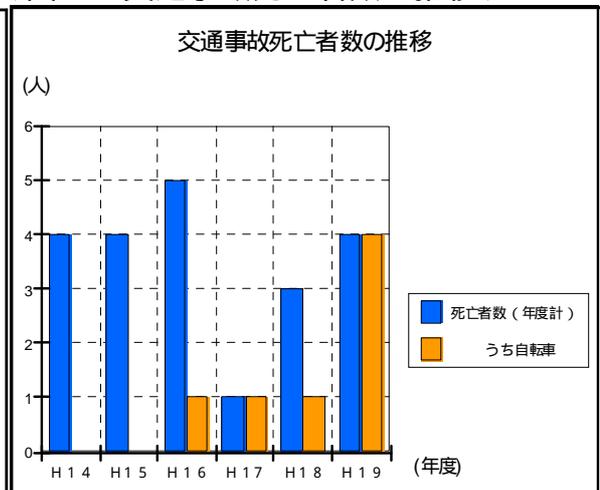
	H14			H15			H16			H17			H18			H19		
	小	中	高	小	中	高	小	中	高	小	中	高	小	中	高	小	中	高
報告件数	56	28	30	56	34	23	62	18	23	36	22	30	23	17	16	29	24	14
	114			113			103			88			56			67		
自転車事故件数	22	14	12	14	26	9	24	14	9	13	15	19	12	9	6	12	17	10
	48			49			47			47			27			39		
死亡被害者数	1	1	2	4	0	0	3	0	2	0	1	0	2	1	0	1	2	1
	4			4			5			1			3			4		
傷者数	55	28	28	55	34	24	59	18	23	36	21	30	22	16	16	28	22	13
	111			113			100			87			54			63		

本件数は、交通事故により1週間以上の加療を要する児童等の事故報告。特別支援学校も含む。

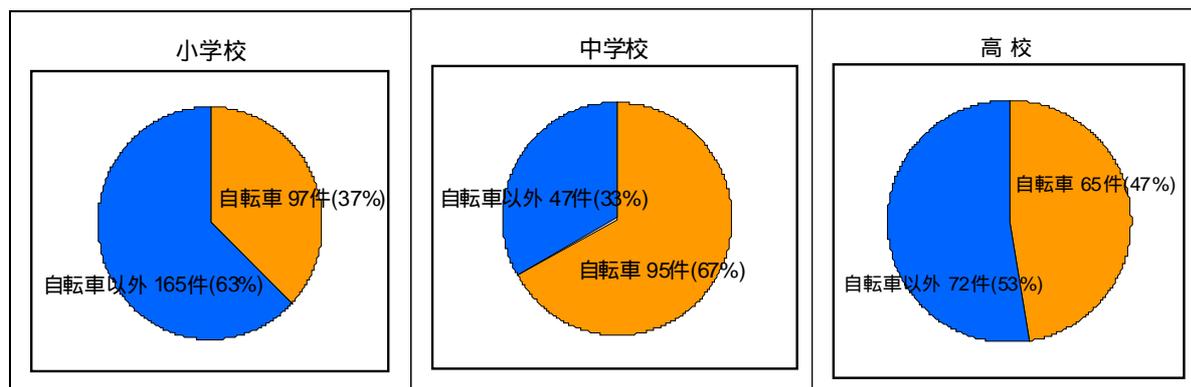
〔図1：交通事故報告件数の推移〕



〔図2：交通事故死亡者数の推移〕



〔 図 3 : 交通事故件数に占める自転車事故の割合 〕



(2) 自転車の事象事例

以下は、本県児童等の過去 4 年間の自転車に係る死亡事故を分析したものである。

・ 交差点横断歩道上 (横断歩道信号は青) で、左折車に巻き込まれる	2 件
・ 時差式信号で片側が赤になった際、上下線とも赤と勘違いし交差点に侵入	1 件
・ 手前車線を車が通過した直後、道路を横断、次の車線の車と衝突	2 件
・ 見通しの悪い下り坂カーブを右側通行し、カーブで車と衝突	1 件
・ 踏切で列車にはねられる	1 件
・ 歩道上での接触 (加害事故)	1 件



交差点横断歩道上での危険



道路の右側通行による危険

一般的に、自転車事故は、車道では突然の横断や右側通行、横断歩道では右左折車の巻き込み、歩道では歩行者との接触が多いと言われている。本県の重大事故も、多くが典型的であり、日々の交通安全教育の積み重ねが大切であることが分かる。

特に、児童等が、自ら、交通ルールを遵守するとともに、横断歩道信号が青になった場合も左右確認を行うなど、実技訓練や危険予測学習により、高い安全意識を育む必要がある。